

第55回 全日本教職員バドミントン選手権大会を終えて

鳥取県教職員バドミントン連盟
辻中 孝彦

「8月10日（水）鳥取空港に降り立った。到着ゲートを出ると『歓迎 第55回全日本教職員バドミントン選手権大会』の看板。歓迎ムードに驚くと同時に、日本海から吹いてくる心地よい風と、爽やかな青空が私を迎えてくれた。」この大会に参加したある県外選手が感じたことを私に伝えてくれた。

神奈川県から参加した彼は、毎日、朝、夕と感じたことを私にSNSで送ってくれた。

8月11日（木）「温泉付きのホテル最高でした。ともあれ開会式に知事さんまでやってくるとは……研修会での高橋先生の軽快なトークで始まり、鳥取弁を標準語に直しながら挨拶する鳥取県の平井知事。レセプションで初めてお話しできた綿貫会長、銭谷専務理事、いつも日本バドミントンの発展を考えておられるのだなあと感じました。因幡の傘踊り、麒麟獅子舞、余興も素晴らしく鳥取県のおもてなしには心から感謝です。」

8月12日（金）「団体戦。メイン会場の素晴らしさに驚きました。こんないい体育館でプレーができるとは思っていませんでした。冷房もきいて快適でした。派遣審判の方の大きくて、はっきりしたコールと判定で試合をすると、まるで自分がトッププレーヤーにでもなったかのような錯覚に陥ります。これも、教職員大会ならではのですね。線審の高校生もてきばきと彼らなりに一生懸命やってくれます。彼らのTシャツがなかなかいいデザイン、購入しようと思って売店に行くと売り切れていました。あ～ふと目をやると、お土産の売場までありました。そうだ、家族への罪滅ぼし。何を買って帰ろうかな？ともあれ地元鳥取県団体初優勝おめでとうございます。」

8月13日（土）「ダブルス。今日はサブ会場。鳥取駅の近くなのに、こんなにいい体育館。おそらく年代別の男子選手へも配慮で近くにしてくれたんですね。試合会場でびっくり、得点表示板に選手名まで掲示してありました。自分の名前下の得点を確認しながら試合をするのもいいものですね。私自身、昨年よりも上位に思い張り切って試合に臨みました。結果は何とか目標達成！さあ今日の夜はどこに繰り出すかな？宿舎のホテルが密集するところが歓楽街。鳥取はいいところですね。この日も地元鳥取の30歳以上男子ダブルスが優勝おめでとうございます。」

8月14日（日）「私の苦手なシングルス。昨日と同じ会場、宿舎から徒歩5分かからない。改めて好立地。試合は予定通りの成果？14時ごろ試合が終わり、さてこれからどうするか。うん？今日は鳥取の風物詩『とっとりしゃんしゃん祭り』があるとのこと。できる限りの仲間を集めて、祭りに繰り出しました。すると、すれ違う者すべてバドミントンの選手。あ～みんな同じ目的なんですね。鈴の音色と、豪快な傘踊り。こんな夏祭りが日本にあったとは驚きです。思わずカメラが大活躍。思い出の一枚取れたかな。居酒屋で鳥取の旬の味『白いか』を頂きました。鳥取の海の幸最高でした。」

8月15日（月）「大会最終日。再びメイン会場に。派遣審判、地元の審判、本部役員の方、お盆のこの日に多くの高校生の補助員。最後の試合が終わるまで素晴らしい運営でした。すれ違う高校生の「こんにちは」のあいさつで癒されました。普段は違う地方に住んでいる私達。でも、全国大会はその離れ離れになっている私たちを引き合わせてくれる。人と人とが直接会うことが、交流となりバドミントンを通じて、人と人との`つながり、`絆、になっていくのですね。この夏、鳥取でできた`つながり、`絆、が来年福島県にてさらに深まりますように！」